

特別展 縄文≒現代

～共鳴する美のかたち

and Contemporary Art

JOMON

— Shapes of Beauty that Resonate —

会期：2023年7月15日(土)～9月3日(日)

休館日：月曜日(ただし月曜祝日の場合、翌平日)

開館時間：9:30～17:00(入館は閉館の30分前まで)
 ※7/29(土)、8/29(火)～9/3(日)は20:00
 まで開館(入館は閉館の30分前まで)

会場：苫小牧市美術博物館 企画展示室

観覧料：一般600(500)円
 高大生400(300)円
 中学生以下無料
 ※()内の料金は10名以上の団体および前売券の料金です。
 ※観覧料の免除規定についてはお問い合わせください。
 ※特別展観覧券で常設展示・特集展示・中庭展示も併せてご覧いただけます。
 ※年間観覧券を受付でご提示いただいた場合、一般300円、高大生200円でご入場できます。

前売券販売所：
 苫小牧市美術博物館
 (苫小牧市末広町3丁目9-7)

出品作家(50音順・敬称略)：
 阿部展也、荒川修作、伊藤隆介、今井俊満、今村源、宇山博明、岡本太郎、小野忠弘、掛井五郎、木内克、草間彌生、工藤哲巳、今純三、斎藤義重、高山良策、武田浩志、立石大河亞、豊島弘尚、中村宏、成田亨、藤沢レオ、棟方志功、村上善男、やなぎみわ、山口長男、山下菊二、横山裕一、渡辺貞一

主催：苫小牧市美術博物館

協力：青森県立美術館、青森県立郷土館、八戸市博物館、八戸市美術館、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

後援：苫小牧商工会議所、苫小牧信用金庫、北海道新聞苫小牧支社、株式会社苫小牧民報社

関連イベント

開幕記念クロストーク

青森県立美術館の工藤健志学芸員と、当館の美術及び考古担当学芸員による「縄文」と「美術」にまつわるトークを行います。

日時：令和5年7月15日(土)14:00～15:00

登壇者：工藤健志氏(青森県立美術館 学芸員)
 細矢久人(当館学芸員)
 岩波連(当館学芸員)

対象：一般 30名 ※定員になり次第締切

参加料：無料

申込：7月1日(土)9:30より電話受付(0144-35-2550)

ワークショップ「〈起源のモニュメント〉～土偶アーティストになろう!」

鉄や木、繊維などを素材に自身の死生観を反映した作品を制作する現代作家・藤沢レオ氏によるワークショップ。当館所蔵の板状土偶などをモチーフに摸刻(復元模型)を制作することで、造形表現の楽しさや、表現と模倣のあり方について考える機会を設けます。

日時：令和5年7月30日(日) ①10:30～11:30 ②14:00～15:00

講師：藤沢レオ氏(金属工芸家・彫刻家)

対象：一般 各回10名(小学2年生以下は保護者同伴) ※定員になり次第締切

参加料：300円

申込：7月4日(火)9:30より電話受付(0144-35-2550)

講演会「八戸の埋蔵文化財(仮称)」

日時：令和5年8月26日(土) 時間未定

講師：市川健夫氏(八戸市博物館主査兼学芸員)

※詳細は決まり次第、公式ホームページ等でお知らせします。

夜間開館

会期中、開館時間を20時まで延長する夜間開館を実施します(入館は閉館の30分前まで)。

日時：令和5年7月29日(土)、8月29日(火)～9月3日(日)

同時期開催

中庭展示 Vol.19 大島慶太郎「MONOGRAMS」

会期：2023年4月29日(土・祝)～11月19日(日)

動画構造の解体と再構築をテーマに制作活動を展開する映像作家・大島慶太郎による映像作品とモノとを組み合わせた実験性の高いインスタレーション。



苫小牧市美術博物館

Tomakomai City Museum [愛称:あみゅー]

〒053-0011 北海道苫小牧市末広町3丁目9-7

Tel.0144-35-2550 Fax.0144-34-0408

<https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan>

<https://www.facebook.com/tomakomai.museum>

https://twitter.com/tomakomai_amyu

本展に関する最新情報については、随時、公式ホームページやSNS等でお知らせいたします。



アクセス

〔自家用車〕国道276号(支笏湖通)と国道36号の交差点(苫小牧信用金庫中野支店かど)を港方面へ曲がり、交差点の次の信号を右折。出光カルチャーパーク内に駐車場(料金無料、約50台駐車可)があります。

〔バス〕苫小牧駅南口より、のりば①から「24番」「30番」「札幌駅前前行」「郊外線(静内行、平取行)」、のりば③から「13番」「14番」に乗り、「出光カルチャーパーク」で下車(所要時間約5分、料金210円)※下車後徒歩5分

2つの時代をめぐる普遍の精神——。

阿部展也
 荒川修作
 伊藤隆介
 今井俊満
 今村源
 宇山博明
 岡本太郎
 小野忠弘
 掛井五郎
 木内克
 草間彌生
 工藤哲巳
 今純三
 斎藤義重
 高山良策
 武田浩志
 立石大河亞
 豊島弘尚
 中村宏
 成田亨
 藤沢レオ
 棟方志功
 村上善男
 やなぎみわ
 山口長男
 山下菊二
 横山裕一
 渡辺貞一



2023.7.15^{SAT} - 9.3^{SUN}

苫小牧市美術博物館
 Tomakomai City Museum

①深鉢形土器 縄文時代早期 八戸市博物館蔵 ②藤沢レオ《起源のモニュメント-石斧》2021年 作家蔵 ③付浅鉢形土器 縄文時代前期 当館蔵 ④深鉢形土器 縄文時代中期 当館蔵 ⑤藤沢レオ《起源のモニュメント-クマ意匠付浅鉢形土器》2021年 作家蔵 ⑥横山裕一《わたしたち》2005年、2007年 作家蔵 Courtesy of ANOMALY ⑦立石大河亞(TARO)1996年 個人蔵 (青森県立美術館寄託)撮影:佐々木光 ⑧成田亨《ベル星人》1967年 青森県立美術館蔵 ©Eternal Universe ⑨狩猟文土器 縄文時代後期 出典:JOMON ARCHIVES(青森県立郷土館蔵、田中義道撮影) ⑩注口土器 縄文時代晩期 当館蔵 ⑪藤沢レオ《起源のモニュメント-板状土偶》2021年 作家蔵 ⑫岡本太郎《午後の日》1964年 川崎市岡本太郎美術館蔵 ⑬土偶 縄文時代晩期 当館蔵 ⑭藤沢レオ《起源のモニュメント-石楯》2021年 作家蔵 (背景作品)武田浩志《untitled》2022年 作家蔵



縄文・現代

特別展



会津土俵レブリカ 縄文時代後期
八戸市埋蔵文化財センター-是川縄文館蔵



立石大河(TARO)1996年 個人蔵
(青森県立美術館寄託)撮影:佐々木光

「縄文」と「現代」、 2つの時代をめぐる 普遍の精神――。

当館の美術館
増設10周年

を記念して開催する本展は、「縄文」と「現代」という2つの時代の造形表現を比較する、複合施設ならではの展覧会となります。「縄文」のなかに人間の根源的な強さに根差す「美」を見出した美術家・岡本太郎の作品を導入とする本展では、北海道・北東北を中心とする縄文遺物の優品に加え、現代の多彩な表現から「縄文的要素」を抽出。「縄文」と「現代」という2つの時代の見受けられる共通性や親和性に焦点を当てることで、過去から現在、そして未来にわたる通底する人間の根源的な感情や欲望について探り、人間の普遍的な精神を考察する機会とします。



岡本太郎《午後の日》1967年 川崎市岡本太郎美術館蔵



台付浅鉢形土器 縄文時代前期 当館蔵



岡本太郎《誘う》1982年 川崎市岡本太郎美術館蔵

セクション2

ひとがた

異形の人型と顔の宇宙



土偶 縄文時代後期 当館蔵

透光器土偶 縄文時代後期 八戸市埋蔵文化財センター-是川縄文館蔵

美術史において「縄文」が扱われるきっかけを与えた岡本太郎は、人型の縄文土器にも関心をもっており、「顔は宇宙だ」という言葉を残しました。また、縄文時代の土偶や現代の造形作品に見受けられる人型は、時間と空間といった三次元の縛りに捉われない独自性の高い造形を有しています。ここでは、縄文及び縄文時代の貴重な土偶、人面付土器などの文化財とともに、今村源、掛井五郎、成田亨、横山裕一らが手掛ける独自性の高い人型の作品を紹介することにより、両時代の造形に見受けられる類似と相違に着目します。



横山裕一《わたし》2005年、2007年 作家蔵 Courtesy of ANOMALY



成田亨《ウルトラマンイラスト》1983年 青森県立美術館蔵 ©Eternal Universe



成田亨《ウルトラマン初稿》1966年 青森県立美術館蔵 ©Eternal Universe



成田亨《バルタン星人》1966年 青森県立美術館蔵 ©Eternal Universe

セクション3

祈りとまじない

――ここからの深層へ――

縄文時代は、生活のための道具だけでなく、祈りの姿勢を示す土偶や狩猟紋付土器をはじめ、祭事に利用した装飾品、副葬品など、祈りやまじないに由来する造形物が多く制作されました。一方、20世紀に入ると機械文明の発達に伴い物質主義社会が到来し、その批判として人間の内面や感情を直接的にあらわす作品が多く制作されます。ここでは、荒川修作、草間彌生、豊島弘尚、中村宏、山下菊二らの祈りやまじないをテーマとする作品と縄文時代の遺物を併置することで、時代を超えて通底する人間の精神について考察します。



深鉢形土器(人面付) 縄文時代中期 八戸市博物館蔵



クマ意匠付浅鉢形土器 縄文時代前期 当館蔵
藤沢レオ
《経路のモニュメント-クマ意匠付浅鉢形土器》
2021年 作家蔵



豊島弘尚《北辺のスフィンクスまたは獅子獅子》
1992年 八戸市美術館蔵



山上徹《(宗義)》1956年 青森県立美術館蔵



中村宏《(宗義)》1967年 青森県立美術館蔵



荒川修作《作品》1960年 ミクストメディア 133.0×97.0×23.0cm
青森県立美術館蔵 ©2023 Estate of Madeline Gins.
Reproduced with permission of the Estate of Madeline Gins.

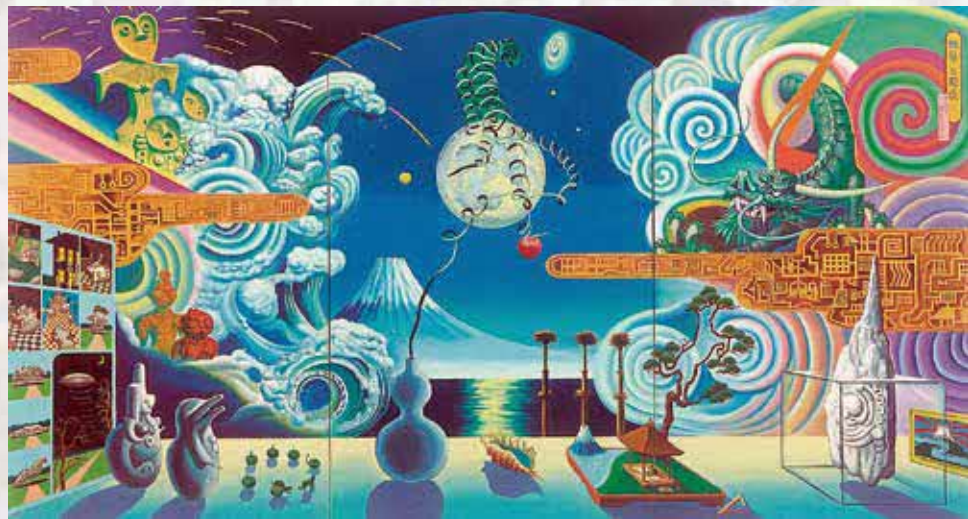
セクション1

着想源としての「縄文」

岡本太郎をはじめ「縄文」に着想を得たアーティストは、数多く存在しています。ここでは、本展の導入として、宇山博明、立石大河、高山良策らが手掛けた「縄文」をイメージの源泉とする作品に焦点を当てます。同時に、ロビーやラウンジ等、企画展示室以外のスペースでは、伊藤隆介、武田浩志、藤沢レオら北海道ゆかりの現代作家によるインスタレーションを紹介いたします。



伊藤隆介《層序学》2017年(撮影:小牧寿里)※参考図版



立石大河《龍潭と龍虎》1992年 ANOMALY蔵



特集展示「くはちとま」の海にまつわる自然と歴史
【苦小牧・八戸交流連携協定「はちとまネットワーク」連動企画】 会場:当館第3展示室

八戸-苦小牧間のフェリー航路開設50年及び苦小牧港開港60周年を記念し、航路の海に生息する海鳥、海生哺乳類などの海洋生物や、海を介した流通・観光の重要な手段である港に関する資料を自然と歴史の視点から展示します。



ウミガラスのはく製 当館蔵



コアホウドリのはく製 当館蔵



航路の海で見られるカマイルカやオオミズナギドリ



苦小牧港振り込みの様子 1960年 当館蔵

同時開催

